

土偶のナゾを読み解く

—なぜ縄文の女神には顔がないのか？—

事前申込制 (先着順)

7/15 (火) ~ 8/3 (日)



講座内容

山形県舟形町西ノ前遺跡から出土した国宝「縄文の女神」。この美しい姿かたちをもつ土偶は、縄文時代の土偶造形の到達点の一つを示す優品だとされています。しかし、なぜかこの土偶には「顔の表現」がありません。この講座では、中部高地の土偶や日本最古級の土偶の分析結果を加味しながら、土偶のナゾを読み解き、縄文の女神に顔がない理由を解き明かします。

講師

瀬口 眞司 氏

公益財団法人
滋賀県文化財保護協会
企画整理課長

専門分野・経歴等
縄文文化研究 (定住論・資源利用論・土偶論等)

1993年奈良大学文化財学卒業

2014年第15回尖石縄文文化賞受賞

著書：『縄文集落の考古学』昭和堂2009年、『琵琶

湖に眠る縄文文化 粟津湖底遺跡』新泉社2016年、

「土偶とは何か」『考古学講義』筑摩書房2019年



●お申し込みはQRまたはHPから ●会場：山形県立博物館 講堂

●申し込み期間：7/15 (火) ~ 8/3 (日) ●参加費無料

お問い合わせ：山形県立博物館 教育普及担当 TEL：023 - 645 - 1111